

こやのせだより

「あきらめない！」

少しを、次々と、時間内に

「できるを重ねる」

自信

平成30年10月2日
北九州市立木屋瀬小学校
校長 瀧上 正彦

学年の半分を折り返しました！

「かくれたチカラ」を引き出そうという目標の元、半年間子どもたちと過ごして参りました。この6ヶ月の間に子どもたちはどのように成長しましたか？あいさつが自分からできるようになったり、読書するようになったり、人のために働いたり、色々な成長が見られたことと思います。私たち大人が、子どもたちのわずかな変化や努力に気づき、見守り、支え、感動を伝えていくことで、子どもの次の成長につながっていきます。

どうぞ、子どもたちの未来のため、声かけをお願いいたします。



ふれあい昼食交流会（市民センター）
で2年生が歌いました。

◎ 夏休みの作品から受賞

理科展研究特選；4年 さん、木工作品展 RKB 毎日放送局賞；5年 さんがすばらしい賞をいただいています。誠におめでとうございます。

◎ 6年生陸上記録会 10月5日（金）

八幡西区の6年生が集まり、100M、400Mリレー、800M、走高跳、走幅跳びに代表選手が出場します。競技は本城陸上競技場で行われます。6年生は、これまで毎日練習を続けてきました。一致団結した応援と自己ベストを期待しています。



◎ 5年生自然教室 10月18日（木）・19日（金）

かぐめよし少年自然の家において、1泊2日の自然体験教室を行います。親もとから離れ、子どもたちだけの生活です。何事も自分で為すこと、子ども相互で助け合うこと、自然に畏敬の念をもつことを学びます。

◎ 人権学習参観・懇談会 10月24日（水）

人権について学ぶ学習参観を行います。本校は対人スキルアップを中心に子どもたちの心作りを行っている学校です。木屋瀬中学校の先生方も見に来られます。ご参観をお願いいたします。

◎ バッタとコオロギ

2年生が、1年生を連れてバッタとりに行ったり、コオロギを1人1匹飼ったりしています。自然との触れ合いが進んでいます。



◎ 4年生 福祉体験学習

4年生は総合的な学習の時間に福祉の学習をしています。目隠しをして友人に手を引かれ廊下を歩いたり、車椅子に乗っていろいろな道を通ったりして、障害をもつ方が生活する上で大変さを感じました。また、どのような手伝いができるのか考えることもできたようです。



シリーズ 子育て応援 ～校長の独り言～

子ども時代しか授けられないものとは…

子ども時代はあっという間です。だから、親は子どもの将来のため様々な体験をさせているでしょう。ダンスやサッカー、キャッチボールや水泳、塾の学習もあるでしょう。それももちろん大切な事。でも、もう一つ大切にしてほしいことがあるのです。それが『センス・オブ・ワンダー＝神秘さや不思議さに目を見はる感性』です。

センス・オブ・ワンダーを探して 福岡伸一（生物学者）

子どものときのある種の体験が、それは取り立てて何でもないような日常の一瞬であったとしても、その人に決定的な影響を与え、その後ずっとその人を支え続けていく、そんな出来事があるように思える……。

石井桃子（児童文学者）の言葉 阿川佐和子 談

子どもたちよ。子ども時代をしっかりと楽しんでください。大人になってから、老人になってから、あなたを支えてくれるのは子ども時代の「あなた」です。

センス・オブ・ワンダー レイチェル・カーソン

子どもたちの世界は、いつも生き生きとして新鮮で美しく、驚きと感激に満ち溢れています。残念なことに、わたしたちの多くは大人になる前に澄み切った洞察力や、美しいもの、畏敬すべきものへの直観力をにぶらせ、あるときは全く失ってしまいます。

もしもわたしが、全ての子どもの成長を見守る妖精に話しかける力をもっていたら、世界中の子どもに、生涯消えることのない『センス・オブ・ワンダー＝神秘さや不思議さに目を見はる感性』を授けてほしいと頼むでしょう。

子育てに悩む親たちは、「あの鳥の名前すら知らないのにどうやって自然のことを教えるの」と嘆きの声をあげるけど、「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではありません。

もし、あなたが自然への知識をもっていないと感じていたとしても、親として、たくさんの子供を子どもにしてやることができます。

たとえば、子どもといっしょに空を見上げてみましょう。そこには、夜明けや黄昏の美しさがあり、流れる雲、夜空にまたたく星があります。

子どもといっしょに自然を探検するということは、周りにある全てのものに対するあなた自身の感受性に磨きをかけるということです。それはしばらく使っていなかった感覚の回路を開くこと、つまりあなたの目、耳、鼻、指先の使い方をもう一度学び直すことなのです。

美しいものを美しいと感じる感覚、新しいものや未知なものに触れたときの感激、思いやり、憐れみ、賛嘆や愛情などの様々な形の感情を授けるため、少しの時間を作り、子どもといっしょに外へ出かけ、感嘆の声をあげてみませんか。